

全国の労働者諸君、我々は茲に再び、横暴偽瞞、労働組合を破壊せんとしたる新潟鐵工所に向つて戦端を開いた。

抑々先般の蒲田工場に於ける争議の結果會社の承諾したる條項は、概ね其實行を見たが、只退職手当の制定なるものを、會社は故意に解雇手当として發表した。我々はそれに對して六月廿六日、再び退職手当の制定を要求したのは、云ふまでもなく當然なことである。

然るに會社は同月三十日、三日間の臨時休業を以つて之に答へ、我々に明らかに挑戦したのである。けれ共我々は非組織的な輕率盲動を斥け三日間の休業明くるや整然として入場し、飽迄要求の貫徹を期したが、突如會社は八十餘名の兄弟の誠意を行ひ無期休業を宣して之に應じた。

今や會社の意圖は明らかである。労働組合を壊滅し、労働者の結束を粉碎せんとする徹底的挑戦である！

我々は茲に猛然として起つ、六百の従業員は一糸亂れざる陣列を敷き、組織化する労働組合の偉力を以つて、彼の資本家の城塞に向つて肉迫しつゝある。

全国の労働者諸君、現下、資本家階級の挑戦的共同戦線を撃破するものは労働者階級の徹底的抗争である。

諸君、乞ふ、日本労働階級の名に於いてあらゆる努力と應援とを致されん事を！

七月七日

日本労働
總同盟

關東鐵工組合蒲田支部

同 月 島 支 部